京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
發行所　京城新報社
京城西署西小門通（電話六六三）

森安博士の講演（七）

▲ペスト豫防心得▼

此鼠のペストの流行には蚤が非常に與かて力がある勿論鼠　は蚤が居る其鼠がペストにかゝれば必らず其黴菌が蚤に傳染する然らば其鼠から他の鼠に蚤が移りペスト菌を移すと他の鼠が其れに罹るのであります印度のペスト調査會では此事を充分に確めなければならぬと言ふて『モルモット』と云ふ動物をペスト患者の在つた家に放置して試驗をして見ました即ち一晩放置して置きました處が其翌朝になり此『モルモット』の體を調べて見ると澤山の蚤が居る加之ペスト黴菌を含んだ蚤が非常に多い更に角蚤が鼠から鼠に移ると云ふことは事實である其れから鼠と人間との傳播の關係を御話致しまするが之は何う云ふ關係を持つて居るかと云ふに此處に（圖を指示す）書いてありまする通りに之れは鼠の死んだ數を示し他は人間がペストに罹つた數を現します之等を見ましても判ります鼠が澤山死にますと人間が段々ペストに罹ると云ふ風で此兩方を見ても多く分ると思ひます夫で鼠から人間に傳播すると云ふのは第一鼠から出た排泄物が媒介となりて人間に感染するのであります丁度『ジモンド』と云ふ人が言つた樣に蚤か鼠疫の媒介をすると云ふてであります處が人間にも媒介をしないかと云ふことは學者が研究致しました之れは事實らしい殊に印度のペスト調査會に此事に付いて充分に調査した其結果に依りますると印度蚤が確かに媒介すると云ふことになりました印度の蚤と云ふのは鼠、澤山居ります而して此蚤はペスト流行時には澤山の黴菌を持つて居るから夫れで鼠に移りやすい日本では四十一年の八月から四十二年の一月迄に淡路の由良町に於て大流行を致しました時北里、宮島博士等が蚤の媒介するやに就て研究されました御承知の通蚤と云ふものは非常に種類があります即ち人蚤、印度蚤、猫蚤、盲蚤、犬蚤等あります印度蚤は日本にも居るかと云ふに淡路の由良町にて調べましたのに印度蚤が居るのみならず澤山居つたので御座います此蚤が健全の鼠よりもペストに罹つた鼠に一番多く居り且つペストの黴菌を多く含んで居りましたそふですそれでありますから此時の北里博士、宮島博士の成績は斯う云ふ風に言はれて居ります現に角由良町に流行したペストは印度蚤が媒介をなしたので此印度蚤は極めて貪食性のもので且つ人に移行し易いものであるから此時の流行も印度地方と同じく蚤が媒介であつたと云ふ斷定を下したので御座います現に角蚤がペストを媒介すると云ふことは茲に於て事實となり諸方の報告が一致して居るのであります此ペストの豫防に付きましては無論ペストが流行すると云ふと國と國との商業上交際上に非常に惡影響を超すものでありますから各國共通の規定があります

●長生浦捕鯨狀況

從來長箭地方の近海に於て盛んに從業されつゝありし捕鯨漁場は漸次南下して蔚山近海に移り目下長生浦を中心として東洋捕鯨會社の捕鯨船七隻にて操業中なるが鯨群の游泳以外に尠なく且つ天候の關係もあり未だ見るべき捕獲なく之れが爲め鯨の相場は昨今益々昂騰し一斤十二三錢の相場を示しつゝありといふ

外事一束

△威嚇　露國は清國に一大要求を爲して威嚇的に多數の軍隊を北滿に送りつゝありとの説傳はり滿廷驚愕色を失ふ。

△禁婚　米國チバダス州に議會下院は黄色人種と白色人種との結婚禁止案を討議せしが遂に多數を以て之を可決。

△接近　英國政府は英獨間の友愛的協商に關する双方の協議は好都合に進行しつゝある旨議會に向つて公言せり。

△行惱　鑑部に於ける露清の交渉は遼河上流に領事館設置の件及萬里長城外に於ける露人貿易に關し行惱となる。

△阿片　英清間阿片輸入條約改正談判は正面より英國の反對なきも支那が阿片栽培絶對禁止をせぬ以上成立困難。

△横暴　安奉線橋頭驛て清警官暴行の爲に吾の重輕傷九名を出し交渉の爲め巡督局を訪へば責任者逃去して不在。

△侵入　英兵雲南省片馬に侵入し清國驚いて英使に不法を詰る而かも遂に要領を得ざる爲め直接英政府に談判す。

△警戒　獨帝の發熱性感冒は稍々恢復しつゝあるも尚ほ警戒を要し二月十五日の宮廷舞踏會は遂に中止せられぬ。

△撤退　露國政府は中央波斯の秩序全く回復せりと認めカスウィンより軍隊を撤退すべく露都來電に接したりと。

△至難　清國の新内閣組織に就き慶親王載澤公を總理に擬せるも相次で辭し遂に錫良を滿州より拔かんとの説有。

●偶感　○○生

懐しき亡父の精靈を吊ふべく今春予は偶々田舍より住み馴れし仁川に歸つた、ア、實に莊嚴なる哉、○○寺の聖堂、其の金碧燦爛たる堂宇を見ては、祖師が七百年の苦行を懐ひ、佛陀の偉大なる功徳を賛歎し、而して現在僧侶の爲す所、餘りに祖師が理意と相反するものあるを見、思はず、茫然として涙の下るを禁じ得ざりき、嗚呼、高く中空に聳ゆる煉瓦の大字は、實に仁川在留幾百の信徒が、至情たる觀美心より發せしものにあらずや、見よ雄大なる大觀、彼の佛陀の光燦然として目を眩するを是れ迷倒たる吾人をして宇宙の最大、絶大の理想に達せしむるの階級として美的觀念を注入するの利器にあらずや、安心此れに依つて得べし、立命亦此れに依らん、然るに現下の俗僧、終に此の聖堂を濟し、佛陀の威徳と、祖師が絶大の偉業とを、一朝にして空しく其足下に蹂躪し了らんとするか咄々

召使れ初

（一の二）　碧瑠璃園

『花待ち遊ばせや、一年に一度より咲かぬ花の前、お酒無うてはお淋しうも思し召しませうで、昨夕仕立て上げたお羽織お御帶、彼を海老屋へ持參するでござります』とお力は涙を拂ひながら云ふ

『いや〳〵、此上お前に苦勞掛けては、切角入拂付いた口が曲まうぞ』と佐五右衛門は頭を拂て、そなた夜の目も寢ず縫ひ上げた仕立賃、酒に替ねては潮の中。

『夜ごと日毎の賃仕事、私の爲めに致すではござりませぬ、お道の爲に致すでもござりませぬ、あなたお心さへ濟めば、私共これで本懷、明日まではお米もござります、その中にはお道にも手傳はせ、同じ家のお小袖を縫ひ上げますると』

「志は嬉しいが、これは斷る、親子四人お前の手一を當にして生活立つる、この間で花見酒、戰場で箭の根折り燒べ、寒さを凌ぐも同然、心ある者の爲まじき事とや、前に云ふたは過失、もう飲まぬ、決して飲まぬ』

『詰らぬ事申し上げ、御氣分を惡うしたでござりまする喃、海老屋の事なぞ申さいでも終ひぞ、思はぬ惡い口、お詫び致す外ござりませぬ一年に一度、花の盛りは半日か一日が命と申すに、御酒無くて何でござりませう、私にお任せ遊ばし、今日一日は何事もお忘れ快うたお盃をお擧げなされませ』

これが以前の身分ならましかば、これが御主君御繁昌の御時ならましかば、今日は大安寺堤、花多日は奈良の八重櫻、竹筒割子に山海の珍味詰めて、供人お付の樂瓢の數を盡しつゝ、樂しうれ花見をも爲るべきに、今は甲斐無い浪々の身、今は仕うる主も無く知行に放れて、手弱い女の手一つに仕立て上げる賃仕事の僅の物に、親子四人が露の命を繋ぐ憐れさは、今日の盛りを明日の嵐に散らす櫻の花よりも頼みない世、天晴れ御器量を持たせながら、此茅屋に埋もれて、一合二合の酒の香を現在妻に頼みたまふ御有樣を見參らせては、生血を絞りてもさし上げねばなるまじく、黑髮截ち切り、身の肉を殺いでなりとも、一日の御樂みを謝たきねば、妻たる身の務めは終ひまじ切て倅の佐十郎にてもあらば、今年は二十の春を迎ねてあらん、此身の相談相手ともなるべきに、品行修らず家出して、今は何處に在るとも知れず、不幸に不幸重なりては神樣の御助けもなく、日ごと時ごと貧苦の底へ沈み行きてやがては、餓死の悲みをや見るべきさても永くはあるまじき運命、とても始終は見込も付くまじき身の上、今の間に詫きるだけのお世話して、一日でも、半日にても、樂しく御機嫌よき御顔を見參らせん

正木佐五右衛門はもと大和國郡山の城主本多肩之助殿に仕へたる重臣なりき、肩之助折天外、外に御相續の方もあらず家名斷絶したる後、佐五右衛門は他家へ奉公する心も無く節を守りて江戸麻布矢之倉の片邊、有る甲斐もなく日を送れるなり　長男佐十郎は家出娘のお道は十五、次男作丸は十歲の小供盛り、近所隣を駈け歩きて、腕白の評判隱れ無きが、お力は舐めたきほどに可愛きなりき

『お母樣』と消しく黄金の鈴を振るが如き聲、お道は臺所より駈けて來て「これをお父樣にお進げ申します」袂の下に秘せしを取り出す、宮戸川と酒の名を白く燒きたる三合入の徳利重げなり



◎東京電報（十六日）

▲特別任用令發布期　昨日特別樞密院を通過したる土地調査局職員特別任用令は本日上奏裁可を得て明日の官報にて發表さるべし

▲調査局と任用令　昨十五日樞密院會議に於て朝鮮總督府臨時土地調査局職員特別任用令を審議し原案通り可決したり

▲寺内總督の病氣　寺内總督病氣の爲め朝鮮事業公債は未だ決定するに至らず

▲朝鮮事業公債案　朝鮮事業公債法案外二件は十五日の委員會に附議し質問應答ありたり

▲税制整理請願　東京、大阪、京都、名古屋、横濱、神戸の六商業會議所は昨年東京商業會議所に開催せられたる臨時全國商業會議所聯合會の決議に依り税制整理に關する請願書を早速、稻毛登所代議士の紹介にて衆議院に提出せり

▲恩賜金と貴族院　貧民施療恩賜金の處置に關して貴族院は政府に一任することに決定したり

▲政友會專横非難　豫算案本會議に於て政友會側は守屋此助氏の質問演説を妨害したる爲め議員の發言權に關し政友會の專横を非難する聲各派に高し

▲防疫官制々定　關東都督府はペスト防疫官制を制定の筈なり

▲鐵道建設建議　中倉万次郎氏外二名は昨日左の鐵道建設に關し建議案を提出したり

一、熊本縣八代より水俣を經て鹿兒島縣川内に至る鐵道
二、宮崎縣宮崎より延岡を經て大分縣下佐伯に至る鐵道
三、大分より熊本に至る鐵道

▲露紙の對清論　露國新聞ロシアは清國と千八百八十一年締結せる露彼得堡條約に依り露國が其の毀損せられたる權利を要求し且つ保護する所あるべしと論ぜり

▲哈爾賓軍引揚　黑龍州總督は黒死病流行の爲め國境の閉鎖を命じたるが尚露國政府は哈爾賓駐在軍隊の引揚を命じたり

◎伯林電報（十六日）

▲獨軍司令官　獨逸海軍中將フオンベーリングン氏は大將フオンフイッセル氏の後任として軍司令部司令官に補せらるべし

▲獨帝の御全快　獨逸皇帝は數日來感冒に罹らせられ居たるも全く御平癒あらせられたり、然れども目下氣候不良の爲め醫師の勸告に依り尚數日御引籠あらせらるべし

●遣英宮御旅程　英國皇帝ジョージ第五世陛下戴冠式御參列御名代の東伏見宮依仁親王、同妃周子兩殿下には來る四月十二日横濱解纜の日本郵船加茂丸に御便乘御渡英のことに御決定相成りたるが同港解纜後の御航程大要左の如くなりと

横濱四月十二日發○神戸十三日着十五日發○門司着十七日發○十八日上海着二十一日發○二十四日香港着二十六日發○五月一日新嘉坡着二日發○四日彼南着同日發○十日古倫母着十二日發○二十四日蘇士通過○二十五日ポートサイド通過○三十日マルセーユ着同港御上陸

夫より巴里に入らせられ六月十七八日頃迄同地御滯在夫より倫敦に向はせられ戴冠式前後十日間同地御滯在の上獨、墺、伊、其他各國を御訪問の後御歸途に就かせらるゝ筈なり

●李王の皇族禮遇　今回石本陸軍次官より其筋へ左の通牒ありたり

李王、王世子及び李埈公、李熹公、侯爵李載完、侯爵李載覺、李熹公嗣子、李埈鎔には其名譽を表彰する爲め第一表の通り陸軍武官の制服を着し其官に對する禮遇を享けしめ李王王世子及び李墹、李熹には其威儀整飾を幇助する爲め皇族に準じ第二表の通り武官を附屬す

△第一表

陸軍大將	李王
陸軍中將	王世子
陸軍中將	李墹公
陸軍中將	李熹公
陸軍中將	李載完
陸軍少將	李載覺
陸軍少將	李埈鎔

△第二表

李王附武官	將官一人	領尉官三人
王世子附武官		領尉官二人
公附武官		領尉官一人

●朝鮮貴族の祝賀　別項の如く今回李王殿下を始め王族に陸軍武官の禮遇を賜はりたるを以て十日午前十一時尹澤榮侯、李完用伯、趙重應子、李埈鎔氏等相前後して昌德宮へ伺候し祝賀を申述べたり

●王妃御生家訪問　來る十九日は公爵尹澤榮氏母堂の誕辰日に當り尹氏母堂は李王妃殿下の祖母なれば王妃殿下には同日午前十時三十分水門洞の尹侯爵邸に成らせられ午後三時御歸還の豫定なり

●韓銀と恩賜公債　併合の餘澤を蒙り多額の恩賜公債を受領したる朝鮮貴族以下の人々は過般該公債の賣買讓渡を許せる特例を開けたりと聞き爭つて總督府に向つて認可を申請と爲したるも其今日までに實際認可濟となりたる者は極めて尠なく其韓國銀行の手に因つて買收濟となりたるものは左の少額に過ぎず

特別認可濟賣收額　十八万圓
總督府現金引換額　廿三万五千九百圓
合計　四十一萬五千九百圓

即ち合計金四十一萬五千九百圓にして總督府に對し現金引換を爲したるものは彼の者老者及孝子節婦等に與へられたる恩賜金に屬し特別認可手續に因り認可せられたる恩賜公債の分は僅かに十八万圓にして其內譯は某貴族一名八萬圓某々貴族五万圓つゝの三口なり如斯なれば實際貸物の必要に迫られ居る比較的少額の公債受領者にして認可を與へられたる者未だ一人もなく之等の輩は矢張り今日に於ても徒らに寶を抱いて自家の窮迫を如何ともし能はざる狀態に在るものなり

●朝鮮問題と議會　十五日午後八時兒玉會計局長より總督府に達したる電報左の如し

本日衆議院決算委員會に於て根本正より韓國森林四十一年度資本勘定に剩餘を生じたるは見込違ひにあらざるやの質問あり兒玉會計局長直ちに答辯せり又山根氏の提出に係るペスト豫防會議に關する建議案委員會の希望により兒玉會計局長より朝鮮に於ける防疫事業の大要を說明せり又朝鮮事業公債外二件委員會には荒井大屋若槻政府委員出席高橋光威森繁大津淳一郎より質問あり出席委員夫れ〳〵答辯をなして大体の質問を了し午後四時散會したり

●總督と鐵道協會　帝國鐵道協會臨時評議委員會にては會長故井上子爵の後任として現朝鮮總督子爵寺内正毅氏を會長に推薦し尚左記の四氏を同協會の名譽會員に推選したりと

名譽會員　侯爵桂太郎、男爵奈良原繁、同後藤新平、山縣伊三郎

●司法官召集期　既報の如く朝鮮總督府司法官召集期は其の筋にて協議中なりしが愈々來る三月十日頃司法部に召集する事に決し近く召集狀を發する筈なるが今會議に參列すべきは各控訴院長、檢事長、地方裁判所々長同檢事正等三十餘名なりと云ふ

韓銀拂込に就て　藤原韓銀監理官談

韓國銀行が近く第二回拂込を行ふべく內定せしは公然の秘密として傳へらるゝが今此事に就き藤原韓銀監理官の談を聞くに曰く未だ何等決定せし事實に非ず然れども政府持株に屬するものは現に三万株あり而して政府も既に其株主の一人たる以上は何時にても拂込に應ずるの覺悟を要するを以て本年度豫算に之が所要資金を計上しある所以なり思ふに過般增資云々の風說は此邊の消息之を産み出せるものに非ざれば市原總裁が東京に於て大株主等に自己の意向を洩らせし爲めに非ざるか其拂込は現下の朝鮮經濟界に顧み大に其必要あるものと信ず則ち現在資本二百五十万圓にては朝鮮の中央銀行として遺憾の點多きのみならず之を實際に見れば各支店出張所の運轉資本或は土地家屋等の固定資本に殆んど其全部が注がれつゝある爲め兎角隔靴掻痒の嘆あるを免かれざればなりと云々

●京城水道官營　京城の水道に就ては過日水道會社と竹内遊澤氏等のシンヂケートとの協定整ひ若干にて買收の約成立し既に水道會社にては讓渡の手續をも了したるよしなるが右水道は總督府に於て官營の意志あれど目下買收の豫算なきより東京に於てはシンヂケートよりの買收其他に付き取調中なるが今其買收費は追加豫算として計上し今期議會に提出さるゝやに到るも知るべからず尚は異日官營の曉には京畿道廳の管理に歸すべしと云ふ

●給水條例の發布　近く總督府に於ては水道給水條例を發布すべく目下夫々其調査を急ぎつゝありと

●韓銀株暴落　韓國銀行が來る二十四日の總會に於て政府貸上金に充當するの目的を以て第二回乃ち二百五十萬圓の拂込を發表すべきことは事實なるが右に付き從來八十三圓の市價を維持しつゝありたる同行株は昨今七十圓臺に下落したり而して愈拂込間際にもならば六十圓臺に暴落するならんとの內報當地某所に達せり

●舊貨賣却入札　韓國銀行にては昨十六日總督府官吏立會の下に第十二回舊貨地金賣却の指名競爭入札を執行せり其結果（單位毛）

種別	落札價格	落札者
白銅	二、〇七一〇	神戸シモンエバルス商會
赤銅	一、六四四〇	横濱オットライメルス商會
葉錢	一、〇七八二	廣島李尾雅次郎
黃錢	一、一〇一〇	高岡盤若覺兵衛
耳白	一、〇四一九	同人

此總金額は約二十三萬六千七百餘圓にして之を前回に比すれば葉錢黃錢耳白の各種は非常の高率を見一般に良結果を得たりと云ふ

●大田の水力電氣　昨年七月中大田の有志及び東京に於ける資本家との共同計畫に係る忠清北道沃川郡大灘布を利用する水力電氣會社は其後諸般の調査を了し目下認可申請中なるが右灘布は實に百五十尺の落差六千馬力を有するもの〻由なれば之れが認可成立の曉は大田に於ける諸工業の動力を供給して尚は大に餘りあるものなりと

●貨幣整理資金と韓銀　元韓國政府に屬し總督府へ繼承したる貨幣整理は來三月より特別會計として大藏省所管に移さるべく同省との協定を了へ之に關する法律案は既に衆議院を通過したり而して該整理に要したる資金は第一銀行より三百万圓韓國銀行より七百十七萬四千五百九十圓餘の現計借越となり居れるが政府は三月末日現在を以て兩銀行に對し右金額を償還すべき筈なりと云ふ

●聯合會と役員會　十五日午後五時より京城日本人商業會議所に役員會を開き中村、古城、林田、近藤、進の各役員列席來る四月大聯合會準備及定款改正幷に會議所修繕等に關し協議を遂げ午後七時散會したり

●京龍在學兒童數　京城民團立各小學校在籍兒童數最近五ヶ年間累年計を聞くに

	三九年末	四十年末	四一年末	四二年末	四三年末
京城	八四九	一四〇九	一八八六	二四〇四	二六七七
龍山	―	三四八	六八五	八五八	九六四
計	八四九	一七五七	二五七一	三二六二	三六四一

左の如くにして現在の在籍兒童數は三千八百六十一名なりしが來るべき新學期よりの就學兒童は京龍兩團を合して約六百名のよしなれば來四月以後は總計四千四百六十餘名となるべき筈なり而して聞く所によれば內地に於ける就學兒童數は人口千に付き九十位の割合なれど京城は八十位のものなりと

●松永第一師團長　北韓地方警備狀態視察を了り十五日午後一時五十分龍山着列車にて歸着されたり

●警務部長巡視　京畿道警務部長藥師川常義氏は既報の如く十七日より約十一日間の豫定を以て楊州、豐德、江華、寅火洞、東幕、通津、金浦、富平、仁川の各地方を巡視すといふ

●有吉氏轉地療養　有吉總務部長官は病氣の經過面白からず千葉縣一ノ宮にて療養中なりしが更に熱海に轉地せり

●荒木憲兵大尉　龍山分隊附の同氏は管內巡視の爲め出張中の處十五日歸着

●宮尾軍醫の歸任　麻田熱性病患者發生狀況視察の爲め出張中なりし宮尾軍醫は十五日夜歸任したり

●堀田監醫部長の東上　十六日東上

●漢江通航　過般來の暖氣にて漢江は一帶に解氷し始めたるを以て割氷せしめ十四日より通航し得るに至れり

●戎克船の出港　去る十一日仁川へ入港したる戎克船裕泰盛、金和元の二隻は積雪の爲め食料品のみにて陸上げ停滯中の處一昨十五日にて五日間の停滯にて陸上げを終へ石島へ向へり

●阿部氏の記者招待　來京中の國民新聞社理事阿部充家氏は明十七日午後六時より京城の記者團を花月に招待す

●奉天經濟狀況　惡疫流行後奉天に波及せる經濟上の影響一方ならず奉天は營口鐵嶺長春の如き商業地にあらずして今日の繁昌を保つ所以全く東三省の政治中心として總督府の所在地なるに由れり然るに惡疫流行の爲め運輸交通次第に遮斷せられ折柄支那正月に逢會して寂寥倍々甚だしきものあり防疫の爲下等勞働者約三千五百人を市外に放逐せる影響は勞力供給の不足となり勞働者賃銀の騰貴となる奉天に集散せる大豆は例年京奉線により營口に輸送せられたり然るに京奉線運輸杜絕以來大豆の瀋陽驛に停滯せるもの一百餘貨車に及び相場は爲に下落し其の結果各油房は原料を格安に仕入れて豆粕製造を爲すを得る奇現象を呈せるも一方勞銀の騰貴は結局收支決算上利益とはならず就中大節季に於ける地方との金融關係圓滑ならず日常品の輸入は杜絕して相場を騰貴せしめかたがた奉天の經濟界は著しき變調を顯はし來りて清商間には大打擊を受け破產に瀕する者一二にあらずと觀測さる惡疫の流行四週間にして尚斯の如き悲境を見る更らに今後久しきに亘らば經濟上の打擊蓋し測り知るべからず云々（小野正金奉天支店長談）

觀光團とは何ぞ　某實業家談

觀光團とか視察團とか云ふ者は近來の流行物でヤリ樣に因つては有益なことだ、殊に朝鮮人をして內地を見物せしめ、亦內地人をして朝鮮を視察せしむるなどは兩地紹介と云ふ事に於ても至極有益な事だ。コロで內地人が常に恐れて居る我朝鮮の冬も最早殆んど過ぎ春もソロソロ來らんとすれば三四五月頃になつたら內地から所謂觀光團とか視察團とか云ふ者が續々押掛けて來るに違ひないサテ前にも云つた通り觀光團なり視察團なりがヤツて來る事は朝鮮全体の爲亦特に我京城の爲に惡い事ではない故に實業家たる余の如きも彼等の來ることを歡迎するに躊躇せぬのであるが只茲に考へねばならぬことは物には差引勘定と云ふ事があることであるのだ、如何に觀光團や視察團が良い事の樣であつても彼等に因つて見舞はれる各地特に我京城が少しの利益を受けて大なる損を蒙る樣では結局ツマラヌ事になるのである。

自分の記憶するところによれば我朝鮮に對する內地人觀光團の第一着は朝日新聞社の主催乃ち去る三十九年中ロセツタ丸で來たのが第一着であつた、此觀光團は流石に朝日の主催だけに團員の粒も揃ひ時の統監伊藤公の歡迎なども受けて立派に觀光の目的を達して歸つたのであつた、爾來此數年間に流行物の觀光及視察團が來るは來るが併し團員に云へばドレもコレも團員の粒が揃はず云はゞ少しの入費で朝鮮見物をしようと云ふ連中であつてコンナ連中が幾ら來た處で我朝鮮の開發には餘り益にはならないのである

夫は先ツレとして扨彼等が來たが爲めに我京城がヤレ歡迎だ、ヤレ煙火だ、ヤレ案內だ、ヤレ御馳走だと負擔した費用は中々少なくない金であるのだ、加之來る團体も團体も宿料は殆んど半人前ソレに茶代は置かず、況んや車にも碌に乘らず土產物は碌に買はず、只團体と云ふ事に況じて民團役所や商業會議所や乃至從道局など世話をするを良い事にして樣々な便宜と接待とを受けつまり三日なり四日なり我京城を喰倒して旅の恥は搔捨てと云ふ格で行つたものが多いのであるのだ、尤も先立て來た名古屋其他一二の觀光團はあまり氣の毒とでも思つたか立掛けに少し許りの金を民團へ寄附して行つた、コウ云ふ次第であるから今迄の處で見ると內地からの觀光視察團と云ふ者は一樣には云へぬがまづ大体に於ては粒が惡かつた爲に我々に迷惑こそ掛けて居れ半島開發など何の益があつたかと疑はれるのである。

聞く來る四月には內地商業會議所の代表者が大勢でヤツテ來るそ、斯は我商業會議所が主人となつて厚遇せずばなるまい、亦京城日報社が主催となつて實業視察團を連れて來ると、斯は資力豐富なる開社が高級の世話をして民團や公衆やに迷惑は掛けまい、余の氣遣ふのは追々時候が良くなるに付けて何の意味もなく續々ヤツて來る道者的觀光隊であるのだ、彼等の來るは彼等の自由だ、併し例年の樣に彼等から喰倒しをされたり、亦公衆や官民へ强制的損失を掛けさせられることは全く以て御免だ云々

公人私人

△岡田小輔氏（總督府技師）　佐藤旅館に投宿
△尾西要太郎氏（朝鮮新聞記者）　不知火旅館に投宿
△齋藤照太郎氏（總督府囑技師）　大邱に向ふ
△淺岡重喜氏（水原新報社長）　釜山に向ふ
△二宮常八氏（總督府技師）　釜山に向ふ
△須藤素氏（全羅北道財務部長）　全州に向ふ
△水野廣氏（長崎縣遠洋漁業團理事）　釜山に向ふ
△八木辰馬氏（平壤郵便局長）　平壤に歸任

▲京城手形交換高▼

二月	金高	枚數
十六日	一五二、九四四、八〇	三二四

▲治外法權▼

飛行船、自動車、帝國座、女優、乃至南極探檢等我邦の事々物々が殆んど世界的となりつゝある今日、只り人間のみが封建時代の遺物其儘では釣り合はぬ譯だ、蓋し曰く不釣合は不緣の原因、茲に於てか何か變動の來るべきは知れ切つた事だ▲流石に桂侯は偉らい、彼れは時世の推移を看て其政治的基礎を國民的に變ずべく定めだ、彼れが閥族呼はりを受けつゝ而かも閥族關係を見捨てたのは遠ふの昔し乃ち日露戰役のスグ後ちであつた▲長い長い間樞軼人の如く見做されて居た大隈伯が樞密院議長になると云ふ噂がある、モシ本當なら結構の事で、其實現は國民の勝利だ、併し之と云ふのも桂侯があるからだ侯ならで誰れか他に早稻田伯を起し得るものがあるか▲記者は昨年三月の本紙に早稻田、三田の關係に就て或透視的記事を書た、而るに其透視が一年後の今日事實と成つて現はれんとして居る、賀する哉蓋し記者一人のみならんやである▲大和魂と武士道で持切つて居た我學者論客は今やドウ戸惑してか南北朝正閏論に火花を散らすようになつた、時世の變は甚しコンナ物か▲皇室の施藥恩賜金に感激して我富豪が多少眼を覺ましたのは結構な事だ、併し[illegible]無學而して貪慾到底皇室の聖意を解し得る代物に非ずだ▲總督府役人の言に因れば有吉總務は之迄千葉縣の一の宮から東京の總督府出張所へ日々出勤して居たのだソウだが、往復の距離が遠いからとて今度は相州の熱海へ轉じたソウだ、熱海から東京への通勤、サリとはゴ苦勞の事だ▲沿岸航路補助は會社統監時代にヤツタのだが今迄の遣りでは無駄だ、當局者たる者まづ航路を統一して補助を有効にすべしだ。

相場電報（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（十六日）（前場）（後場）

		（前場）	（後場）
▲京阪	同	六五、四〇〇	六五、一〇〇
▲電鐵	同	六五、二〇〇	六五、九〇〇
▲大阪紡績	同	六八、〇〇〇	六八、九〇〇
▲電燈	同	一〇七、八〇	出來不申
▲大阪株式	同	一三〇、一〇〇	一二九、六〇〇
▲同直	同	一二九、二〇〇	一二八、七〇〇
▲取引	同	一二七、八〇〇	一二七、七〇〇

▲大阪期米

十五圓七錢▲止三錢▲三月寄十八錢▲五十三錢▲止五十五錢●十六日前場二月寄十五圓五錢▲三月寄十圓五十三錢▲最高五十九錢▲最低

▲仁川米豆取引

●十六日前場二月寄十圓▲四月寄十錢▲止三十一錢 三月出來不申▲四月

▲仁川港出入船舶▼

▲京龍電鐵乘客賃金▼

▲南大門驛乘降客　十五日の分　乘車客　五一五　下車客　五七九

▲龍山驛乘降客　十五日の分　乘車客　一五六　下車客　一五〇

乘車賃金　一九、一一

▲南大門驛荷扱高　十五日の分

發送　一噸　到着　二九七噸

京城の眞夜中

みや生

「宜い娘で御座いませう」と御久保さんが云つた。予は朋友から借りて來た貫入りかの煙管を取出して、スパーツと一吹して居たが火鉢の縁をハタと叩いて「惡くもないネー」と言ふと若い衆にも氣を利かせねばならぬから**三圓五十錢**では如何」と一本刀切り込んで來た。もう澤山だ此上長居して居るも或は逃げ出し仕樣になるかも知れぬ「もう大分遅いから三圓にまけないか」と出來ない相談を持ちかけた、無論女房は拒絶した、是れ好き機會と帽子片手に「明日も京城に居るから又來ます」と云つて例の車夫と一寸待ちなさいと云つて居る、暫くして「三圓頂きたいですが三圓五十錢に負けませう、旦那」から何處へ行つたつて駄目ですアノ、宿屋だつて仲々掛りますわね、況してあんな女の子が付いて二枚半とは安いもんです」

默つて居ると、予の顏を見て女房は更に談を乘り出した。

「二圓五十錢なら宜くれないんですよ」內の座敷では宿屋より美いのですものから……」と言ふ、三圓五十錢が一躍二圓五十錢に下つた所を見ると一圓五十錢が予の希望通り一圓になるかも限らぬ、思はず微笑を洩らしたら、十茶代を取て居たが……

房は正直者だ、若い衆にも祝儀をやらねばならぬと言つたのは、……

池淵の女

……「女出すなら……三圓出さう」と言ふと

オット萬歲は呑み込んだ私の車を二三間押切つて……走りツ。

車に北へ折れ石橋を左へ二丁程進み……

「中山」と書いた街燈がある……一寸付けて……安いもんです、ヘイ御案內します……

墮落の手拳が血を吸て米盡

……若き女の**優**しい**辭儀**……

顏を背向けた……**車夫**は早速の**提灯**を……ヒタと女の顏へ差し付けた、久しく顏押し隱す。……逃ぐるが如く……失せた。

活動寫眞 朝の南大門驛

覆面子

……明け渡る空は晴れて北風漸く……春雪の峰に四周の春寒し……

林田ふさの紙片

……

生ける**丹頂の鶴三羽**が見ゆる。美事なる哉。

は一間大の格子木箱に頸を延ばして後脚を上げた**雪白の羽毛、額**上の**丹彩**、清淨無垢、眞に之れ靈鳥の最なるもの、之れを送るものは**京城の龜屋**であつて**請取人**は**東京**銀座**龜屋**である、竹川町の一角、洋館美々しき龜屋商店は**主人**を**鶴五郎**と云ふ、龜と鶴、之れを受くるに及んで彼れが商運益々隆んなるものがあらう遙かに一句を寄する。

野鶴九皐に啼て春を飾るべう

轉じて待合室に入れば、**浦尾旅館**の若者に伴はれた一人の男、姓を**岡田**と云ふ**切符を失**す、衣を脱し袖を振ふて尚は發見せず、已むなく更に若干の紙幣を投じて切符を求めたのは氣の毒であつた。

●●●●●● 午前九時と同九時十分との南北兩行の列車は、各人各樣の想ひを乘せて、晴れ渡る高麗の廣野の寒風を突いて分れ去つた。

遙かに**南山**を仰げば、森閑落寞の驛前、**碧瑠璃の雲**は輕く松の梢に懸る。

●食逃、橫領

京城本町一丁目一二番戶平尾荒方森雄萬一(三六)は滋賀縣東淺井郡竹生村大存弓削二二五番の者にして本年一月十日より月末迄龍山本町二丁目下宿屋大久保壽雄方に滯在し宿料二十餘圓を仕拂はず逃走し前記の住所に潛伏せるを發見せられ數回の督促を受くるも言を左右に托し應せざるを以て終に龍山憲兵分隊に召喚せられ取調の結果同人は仁川花町酒造業大森寶太郎方に雇はれ中昨年十月より本年に至る迄其取引先より集金したる六十餘圓は他に米倉町小野商店等にて新造の酒を交換せんと酒樽を引出し他に賣却し其代金をも費消したる廉發覺し同隊より終に檢事局へ送られたり

●清人の民團學校入學

仁川支那町二丁目住支那人王玉忠の子息王麒麟(一二)は現在支那學校にて就學しつゝあるが何故か支那學校を嫌ひ日本の學校に入らんと父兄に迫り洋服を造り又斷髮をなさんとし居るを以て十五日父王玉忠は民團へ出張し入學手續を懇請せしを以て民團にては就學規則第四條により傍聽生として入學を許可せしかば王は非常に喜び居れり

●各署の鼠買上數

各署十五日買上數西大門分署三二五東大門分署二六五南部署二七二北部署二三九銅峴分署一七〇水門洞分署一〇七龍山警察署二七同憲兵分隊二七なり

●仁川鼠買上高 十五日百十二頭金三圓三十六錢なり

●意氣地なし二人男

大阪市南區河原町三十五番地當時住所不定小野武夫(二六)兵庫城崎郡城崎村字新町當時太平町一丁目下宿屋丸尾方志水實次(二〇)の兩名は大連より京城に來る際旅費支拂へば他に餘錢なき事を豫期し昨年一月三十日京城に來り同夜京城御成町稻葉館に止宿小野は宮脇武夫と志水は大石常吉と詐稱し何の仕事なく徒食中二月十一日午後六時小野は外出の儘歸宿せず清水は宿料四十餘圓を請求するも懷中無一物にて支拂出來ざるより南部署に告訴され取調の上清水は檢事局に送らる

●懲役 德島縣阿波郡八幡町栗島當時若草町一丁目大塚金一郎(二五)が昨年十月より北部校洞東文館印刷所に雇はれ注文取りに從事中印刷代數十圓を橫領新町遊廓第一樓本店及支店に於て遊興し南部署岸長野兩刑事に捕はれし事は當時既報の如くなるが該事件は爾來京城地方裁判所に於て審理中の處懲役一ヶ年に處せらる

●無罪 放尿被告吉澤德太郎は無罪

●橫領 福島縣安達郡二本松町字根崎町二丁目三十一番地當時龍山鐵道構內町田文林堂雇人齋藤幸作(三四)は昨年八月七日より町田文林堂に雇れ龍山出張所に於て新聞配達及集金に從事中六十餘圓を橫領したる事件にて南部署に告訴され取調の上檢事局に送らる

●賭博 東幕下契十統八戶雇人吳昌雲(三七)平安道延安郡玄岩里農金允一(三四)麻浦住雀判用(二七)土亭里五統六戶雇人金允陳(三二)の四人は十二日午後五時頃東幕下契劉應七方に於て賭博を開帳しつゝありしを巡回中の吉田巡査に發見せられ直に龍山署に引致處罰せらる

●檢擧 若草町二丁目居住左官職土田喜一(五三)永樂町三丁目居住左官職平山利吉(四三)若草町二丁目土田方同居左官職廣津梅次(二八)の三名は十五日午後五時頃より上田喜一方に於て金錢を賭し博奕を爲したるより南部署に檢擧され取調中

●公判 奈良縣奈良市奈良坂町十九番地當時龍山漢江通り三丁目吉田才次郎(三二)は洋服調進に從事中保釋を依賴された洋服は入質し新調代金を受領したるを費消したる事件は河村檢事の手にて公判に付せらる

●龍山に窒扶斯 龍山鐵道官舍九六號三石田庄次郎長女部枝(一六)は十五日臨室扶斯に罹りたる旨佐々木龍山同仁醫院長より同地憲兵分隊に屆出でたるを以て直に嚴重の消毒を施すと共に同人を鐵道官舍避病院に收容したり

●不所存者 昨年十月南部署に窃盜罪として檢擧されたる加藤百六(二〇)は懲役二ヶ月の有罪判決を受け永登浦監獄出獄後本月十五日夜本町二丁目日韓書房に於て書籍三冊を窃取し南部署刑事に取押へられ目下取調中

●觀音講說教 若草町一丁目曹洞宗兩大本山別院にては十七日午後一時より觀音講中家門繁昌の新禱回向午後七時半より田中主任の說教詠歌あり

●日韓禪寺 花園町曹洞宗日韓禪寺にては十七日午後一時より月並觀音講說教詠歌和讃等ありと(參聽隨意)

仁川商店めぐり

本町四丁目 芳春園茶舖

店主田中熊輔氏は和歌山の人にして明治三十九年仁川に渡り理事廳に奉職し職務大事と勉勵し剩へ戊辰詔書に則り勤儉貯蓄を實行したる結果は數年ならずして相應の資を作り得たるを以て同四十二年職を辭し早川茶店を其の儘讓り受け芳春園と改め孜々として店務に勵めども當時早川氏は或る投機的事業に失敗せし後なりしかば粗惡の商品を販賣しつゝありし事とて信用地に墜ちし際なれば之れが信用の回復を圖る爲めには生産地への特約品質の吟味等數月の苦心實に啻ならず不利の商買に陷り一時は放棄せんかと思へども更に勇氣を起したる効果は今日の繁榮を來し市內は云ふを要せず各地方よりの注文續々たるに至れり最も氏は妻君內助の功大に力ありとは世人の認むる處なり

●演藝だより

●歌舞伎座 同座に於ける男女合同劇一座十七日の替り狂言は敵討溺水の曙余七幕にして重なる配役は 下郎岡平(正郎)きぬ(福司)しづ(淺吉)三作倉之頭(尾の吉)鐵師久作(和調)下郎仙吉(鶴三郎)

●京城座 十七日は午の日と逆日の大入祝ひを兼ね盛なる稻荷祭を擧行し藝題は特に「百万圓」を選び大車輪に演ずる由にて重なる配役は 辯護士河合四郎(岩村)は組の伊多(花房)岩井清花(塚本)佐野夏子、長吉女房お秀(堀江)野口傳吉、甘組の長吉(吉井)櫻井敬吉、は組の半次(松澤)本條良一(青澤)山本丹吾(小泉)佐野子爵(江見)

●泊花館 大阪女義太夫越之助一座十七日の語り物は 御祝儀壽三番叟(入登)先代萩三段目(濱助)白石噺七ツ目(越濱)日吉丸三段目(若大)三十三間堂平太郎內(十佐濱)中將姫雪責の段(源八)加賀見山又助內(高助)八陣八ツ目(越子)日蓮記三段目(越之助)忠臣藏三段目殿中より裏門の段(掛合)三味線鶴澤大三竹本三越

●博物館瞥見

丹碧の大門、嚴めしき守衛の目送を後に、明政門を入りて左側第七號館の平坦なる長廊に入る、**朝鮮古來**の**文物**燦然として眼底に新たにして、大王常用の御轎は內面黄色綸子にして外面も濃黃の色彩、之れ鮮人の常套を發揮したるものかと微笑自から禁ぜず、王妃嘉例の轎は赤色燃ゆるが如く轉た其艶麗に眩せしむ、李朝の陶磁器、漆器、金屬の彫刻物**整然**として**幾百**、古雅愛すべく螺鈿の盃臺小なれども熟視久うして尚は厭かず、新羅朝の金佛宛然生けるが如く慈顏豐類、**名匠の苦心**歷々見るが如く金剛山楡岾寺の所藏たり、香爐は古色蒼然たり、火天鐵桶、紅彩後垂等大に好奇の目を聳だゝしむ、天象列次分野の圖は惜ひ哉甲冑の後方にありて一覽するを得ず、楣間の古詩

林下居常睡起遲 那堪車馬近來稀
春深晝永簾垂地 庭院無風花自飛

仰て之れを反誦し轉た邦家の轉運を想ふて佇立す。

第九號館は殊に新進の邦國**生産**の**開發**に於て輕々看過すべからざる陳列品なり、朝鮮の礦産物、金銀砂金水晶其物の礦物、悉く珍中の珍、黃海道遂安郡慈洞の**砂金**に至ては將さに**四寸大**のもの、殖産興業に志あるの士の好標本たるべし、中央の仁政殿は第五號館にして**新羅朝の土器**を陳列す、花鳥の合天井、彩色麗はしきも俗惡の念を惹く、第一號館の景春殿の大額は御筆とや、高麗朝遺物は古色掬すべく、就中靑磁鑲嵌の水注には千年の古色彷彿たり、繪畫を陳列せるは第三號館なり、金弘道の人物、李不害の山水、殊に筆者未詳道士渡海の一幅、墨痕淋漓として賞玩去る能はざらしむ、他館、何れも見るべく賞すべく、情緒

●**清雅、牛日**の閑、幸に**溫古知新**の誼を得たるを喜び、當局の評釋を多とし、出でゝ禁苑を步せば日斜めに野鶴高く啼て昌中の民肥へたり矣(秀峰)

今日の運勢

●二月十七日(舊正月十九日)●白戊午先勝定△一白 旅行起業開店婚姻効無し金談遺失衛生注意の事△二黑 不振の日新事旅行貸借金談婚姻効無し色情不和を戒しむ△三碧 會心の日大凡吉分離紛爭解決裁判解散遂行に好良△四綠 契約婚姻纏變中裁事其効無他は成効の日大凡進んで吉△五黃 新事見合せの事紛爭不和の因を釀し易し盜失遺失防ぐべし△六白 利得若くは勤從增進の日業務上進んで利あり交際上及色情の破れを戒しむ△七赤 兒女使用人の事累あり他は靜寧の日進んで吉△八白 整滋多し賣買取引闘合係爭事件に忌む盜失遺失防ぐべし△九紫 物の闘り難き日訂約婚姻新事貸借協合金談無効旅行轉住凶(三一館)